

熊本県立荒尾支援学校進路便り NO. 4

わーく&らifu

平成28年7月19日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

★連載「キャリア教育基礎講座②」～ご家族はジョブコーチ～

★特集 高等部の学習～現場実習～

連載「キャリア教育基礎講座②」

～ご家族はジョブコーチ～

今週から夏休み。家庭や地域で過ごす40日余りがスタートです。

家族との時間が増える夏休み。アイデアとリズムある生活、メリハリのある過ごし方で、ぐっと力をつけることができる時期かもしれませんね。ぜひご家庭で40日間の過ごし方の計画を練ってください。中学生以上になれば、お子様も交えた話し合いで、目標と行動計画を作ることも、本校が大切にしている「決める力」を育むものと思います。

ハートフルシンポジウムで講話いただいた、わがんせの宮崎施設長によると、「働く生活の準備は、まず家庭生活の充実から」だそうです。私たちは先輩保護者である宮崎様の助言をもとに、家庭教育が果たす役割の大きさをより一層理解して参りましょう。

家庭での責任ある役割（家事）を果たすこと。自分がやった結果が家族のために役立つことを実感することは、我々が考えるより大きな意味があると肝に銘じ夏休みを過ごしてみましょ。ジョブコーチはお子様の事をよく知るご家族。楽しみながら取り組みましょ。

夏休み。こんな過ごし方でパワーアップ！

★まずは、一日の暮らし方（スケジュール）を話し合いましょ。

※「規則正しさ」、「ほどよい運動」、「家事・手伝い」、「余暇の過ごし方」など

★仕事へつながるステップとしての家事・手伝い取り組みましょ。

★将来の仕事につながる活動は、家庭の中にたくさんあります。

★小さいうちは興味のある活動から始めましょ。

(ex 水遊びが好きなら米研ぎをする等)

★学部・学年が上がれば、大変でも、楽しいことを我慢してでも必ずやりとげる経



験を積ませることも大切です。(働くためには、「我慢する力」がとても重要です)

★お手伝いや家事で培った力をベースにして、働く生活に向けた力が徐々についていきます。

(右のピラミッド構造図)

◆たくさんの種類のお手伝いを

楽しみながらの「お手伝い」で出来ることのレパートリーを広げましょ。焦りは禁物。家庭生活の長い時間は「味方」だと考えましょ。今できることは一つでも、学校生活12年間では12個教えられるのですから。

◆人から教わる姿勢が育ちます。

手伝いを教わるということは、お手本を見て(注目行動)、真似をしながら(模倣行動)行動し、その時間を相手に合わせる(協調行動)ことを学ぶということです。このことは、学習のための重要なスキルですので、いろいろな事を教えるのに応用できます。また、教わる相手が、お母さんだったり、お父さんだったりときにはきょうだいだったり、協調できる相手が変わることも大切な学びとなります。

◆人から認められることを実感できます

ハートフルシンポジウムで宮崎さんは、家庭の機能の一つを「心の基地」と表現されました。「家庭は子どもにとって安心できる場であること。」「じっくり丁寧に話を聞き観察し、できたことを、できたぶん(大げさでもいいから)しっかり認め、ほめてあげましょ。」とお話になりました。家庭での手伝いは、まさに褒められる(人から認められる)機会を増やすことと言えますね。

家族と一緒に決めたことをやり遂げる経験が責任感を育み、家族から認められることで、自分自身を肯定的に見ることが出来るようになります。

◆家事として任せてみましょ！

得意になったこと、任せても安心なことは、思い切って「家事」として任せてみましょ。本人にとっては、やり遂げたことへの満足感も格別です。

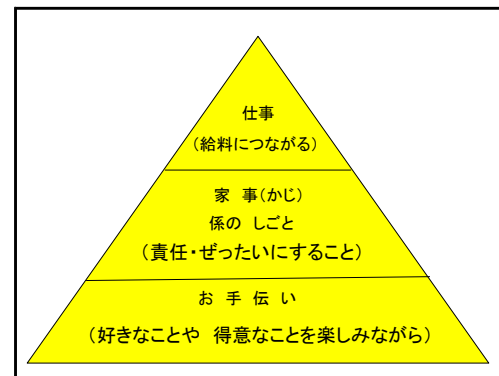
仕事をすることは、人から「任せられる」ということですので、我が子の何が強みで「任せられる」のかを知ることが出来ますね。

◆お手伝いの報酬としてのお小遣い

家事とお小遣いの関係づけを、早い段階から行っておくことは、卒業後に働くモチベーションにつながっていく大事なことです。夏休み、「これをがんばったから、〇〇円のお小遣い」という取り組みもしてみてもいいかでしょう。

すぐにあげずに、8月末が給料日と決め、たまったお金で楽しみを計画することもいいでしょう。

ただし、お小遣いをあげることに終始せず、「ありがとう！たすかったよ。」「きれいになって嬉しい。」など、感謝の気持ちも意識して伝えるようにしていくと良いですね。



特集 高等部の学習～現場実習～

高等部一般学級では、年間Ⅲ期の実習期間を設けており、3年間で5回の現場実習を実施します。(右図参照)

◆第Ⅰ期実習(6月)

1年生は3週間の校内実習を経験し11月の現場実習に向けて、段階的に力を付けていきます。

2・3年生は7日間の校内実習後、8日間の現場実習を経験します。

◆第Ⅱ期実習(9月)

10月から卒業後の福祉サービス利用に向けた手続きが開始されるのに先立ち、3年生は、利用する福祉サービスと事業所を決定するための実習を8日間実施します。

◆第Ⅲ期実習(11月)

11月には1・2年生が7日間の校内実習後、8日間の第Ⅲ期現場実習経験します。1年生は初めての現場実習となり、学校以外の場所で初めて一人で働いたり活動したりする生活を経験することになります。この積み重ねがとても大切です。

◆現場実習のねらい

現場実習は、長い教育活動の節目節目にやってくる「駅」のようなものです。

学校教育や子育ての成果が試される場であるため、今までの取組全般を立ち止まってゆっくり考えるチャンスです。

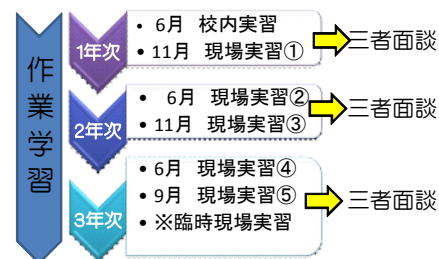
よくできたことも、できなかったことも当然あるはずですが、大切なのは、これからの、進路希望と努力目標を親子共々はっきりさせることにあります。

そのために、目標設定と振り返りの学習には特に力を入れ、次のような学習で編成しています。

◆現場実習に関する学習の構成

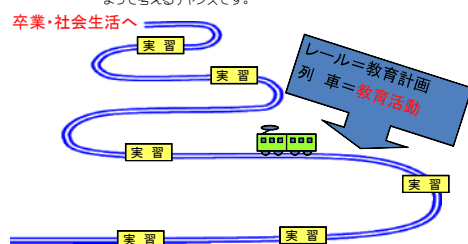
現場実習に関する学習には、「事前学習」「校内実習」「現場実習」「事後学習」「教科職業」の5つがあり、このサイクルを繰り返し、生徒自身が「働きたい」と思える職場を探していきます。

本校のキャリア教育と現場実習



実習とは、「駅」のようなもの

日頃の教育や子育てを点検し、今後の在り方をじっくり立ち止まって考えるチャンスです。



事前学習は5日間あり、現場実習の目標設定、通勤手段の確認、実習日誌づくり、現場実習激励会（保護者参観）、現場実習先への事前挨拶（保護者同伴）などの学習に取り組みます。

校内実習では、実習先の仕事内容に応じて、「清掃作業」「パンの袋詰め作業」「ボルトナット作業」「ピッキング作業」「らっかさんづくり」「園芸作業」「生活班の製作活動」などに分かれて学習します。実習先の作業を想定した内容に取り組むことで、意欲を高めたり、実習に対する不安を軽減したりします。

また、キャリアアップチャレンジ5の5項目を全体の目標として作業に取り組みます。

現場実習は前述のとおり8日間行います。

期間中には、担任が巡回指導で実習先を訪問し、担当者や評価点や課題点などを話し合い、実習生に対して励ましたり、アドバイスをしたりします。

現場実習が終了すると、翌週からすぐに5日間の事後学習に取り組みます。実習日誌を活用した実習の振り返り、実習先へのお礼状書き、実習報告会に向けた準備を進めていきます。

キャリアアップ チャレンジ5

- 1 気持ちいい あいさつ へんじ
- 2 きちんとした 身なり
- 3 ていねいな ことばづかい
- 4 時間・約束を まもろう
- 5 そうじ・かたづけ

◆教科「職業」での深化

教科「職業」は、下のことを目的としています。

将来自立し社会参加することを目指し、職業人としてだけでなく、**社会人としても、必要で一般的な知識・技能及び態度**を身につけるようにすることを目的とする

(学習指導要領解説)

このことを踏まえて教科「職業」では、実習の振り返りを更に深め、評価点や課題点を明確化し、次の実習への目標設定をするにとどまらず、これからの生活全般に関する目標設定（学校生活の目標設定、家庭生活の目標設定）を行います。

ここで大切にしているのは、共通する進路希望のある仲間と話し合い活動をすることで、共有感を高めていくことです。この学習を次回の現場実習まで繰り返し行っていく、自分自身の夢に関する、生徒自身のかかわる力、きめる力、はたらく力を着実に伸ばし、その力が職場で存分に発揮できるように取り組んでいます。

<編集後記>



「現場実習」をさせて頂ける会社は、保護者の皆様が想像されるよりも、ずっとずっと少ないのが現実です。更に雇い入れても良いという会社になると、また更に更に「わずか」です。

保護者の皆様も、本校生徒の実習先探しに御協力・情報提供頂けませんか？些細な情報でも遠慮なく進路指導部（谷口）へ！